

第4回北海道SDGs推進懇談会 議事録

日時：平成30年12月19日（水）14：00～

場所：かでの2・7 610会議室

【出席者】

○構成員：柏村 章夫、小泉 雅弘、菅原 亜都子、野吾 奈穂子、吉中 厚裕

【五十音順、敬称略】

【5名出席】

○北海道：谷内計画推進担当局長、石川計画推進課長、渡邊計画推進課主幹

（石川計画推進課長）

皆さんお揃いになりましたので、ただいまから第4回目となりますけれども、北海道SDGs推進懇談会を開催させていただきます。本日は大変お忙しいところ御出席をいただきまして誠にありがとうございます。前回懇談会の開催結果でございますが、先日、皆様にご確認をいただきまして、道のホームページに公開させていただいております。本日の懇談会の開催結果につきましても、後日、ホームページで公開させていただきますので、よろしくお願いいたします。なお、本日の終了時間でございますが、15時30分を目処としておりますので、よろしくお願いいたします。それでは開会に当たりまして、谷内画推進担当局長から御挨拶をさせていただきます。

（谷内計画推進担当局長）

計画推進担当局長の谷内です。今日は年末の御多忙の中、懇談会にお集まりいただきましてありがとうございます。また、中々日程調整が上手くいかず、今日は5名の出席となりましたけれども、日程調整に御協力いただきまして、誠にありがとうございます。本日は、この懇談会の大きな目的の一つでありました北海道SDGs推進ビジョンについて、御報告させていただきますが、これまで皆様方から色々な御意見をいただきながら、それを踏まえて、先月、ビジョン（案）を取りまとめさせていただきました。今日はそのビジョンの報告とともに、これからのSDGsの推進について、こういった取り組みを進めていくかということも含めて、当面の我々の考えをお話しさせていただきますので、そういったことについても御意見いただければと思っております。このビジョンにつきましては、来年早々にでもですね、地域等を回っての説明会というものも開催したいと思っておりますし、後ほど御説明いたしますが、2月には、SDGsのセミナー開催に向けて準備をしておりますので、そうした中で多くの方々にお集まりいただいて、色々な情報共有などができる場を作っていきたいと思っております。もちろんビジョンができて、新しいスタートがこれからまた始まると思っております。ビジョンができた後に何をやっていくのかということが大事だと思っております。このビジョンを色々なところで周知したり、活用したりするのはもちろんですけれども、企業や団体の方、NPOの方、あるいは市町村の方など、そういった方々にSDGsというもの

がより広く浸透し、取り組みの裾野が広がっていくよう、私どもとしても取り組んでいきたいと思えます。そうした面についても、色々な御提言をいただければ、大変助かりますので、よろしく願いいたします。短い時間ですが、今日もまた引き続きどうぞよろしく願いいたします。

(石川計画推進課長)

それではここからの議事の進行につきましては、座長の吉中先生にお願いしたいと思えます。よろしく願いいたします。

(酪農学園大学・吉中 厚裕)

皆さんお忙しいところどうもありがとうございます。今、見てみますと、懇談会委員として頼まれている11人のうち5人出席ですが、出席者数による定則といった性格の会議ではないと思えますので、また貴重な意見をいただければありがたいと思えます。どうぞよろしく願いいたします。今日は15時半を目途に終わるようにしたいと思っていますので、よろしく願いいたします。それでは今日の議事ですが、議事次第では2つ予定されています。「北海道SDGs推進ビジョン(案)」の報告について」と「北海道における今後の推進について」です。局長のほうからもお話いただいたとおり、これからどうしていくのかというところで、意見をいただければいいのかなと思っております。その他何かあれば、議事次第にはありませんが、その場で時間を取れば意見交換させてもらいたいと思っています。よろしいでしょうか。それでは早速ですけれども、議事1のビジョンの報告についてと、ビジョンの4章にも「ビジョンの推進」という項目がありますが、具体的にどう推進されるのかということが議事2に関わってくるのかと思えます。ですので、その辺をまとめて御説明いただいて、その後、色々意見交換させていただければと思えます。よろしく願いいたします。

(渡邊計画推進課主幹)

計画推進課の渡邊です。私のほうから簡潔に御説明させていただきます。まず、資料について、次第の下側に書いてありますが、資料1から資料10までつけさせていただいております。足りないものがありませんでしたら、その都度でもおっしゃっていただければと思えます。それではまず、資料1の推進ビジョン(案)について御説明します。これまで、懇談会などでいただいた御意見などを基にしまして、資料1のとおり、北海道SDGs推進ビジョンの最終案を道の方で取りまとめさせていただきました。先月に郵送で案をお送りし、報告させていただきましたが、その後の議会議論もあり、若干追加したものがありませんので、この後の資料2と合わせて御説明させていただきます。資料2はビジョン原案からの主な変更事項をまとめた資料がございます。そちらをご覧ください。ビジョンの構成などにつきましては、原案から大きな変更はありませんが、懇談会の皆様からの御意見、パブリックコメント、市町村意見や議会議論などを踏まえまして、記載内容の充実や図表の追加、データ更新や文言整理などを行っております。主な変更事項ですが、資料の中段、「意見を踏まえた主な変更事項」のところにあるとおりです。ビジョンの基本的な考え方に関しまして、道の方で8月にSD

G sに関する道民の意識調査を行っており、その結果を盛り込んでおります。また、前回の懇談会でも御意見いただきましたとおり、SDGsの趣旨や取り組みの必要性を分かりやすくするために、SDGsを中核とする2030アジェンダの理念などをコラムで追記しております。そのほか、北海道の現状や課題、価値や強みを表すデータの更新ということで、例えば、懇談会の中で、生態系に対するデータがあまりないという意見もありましたので、タンチョウの越冬分布に係る観察数のデータや外来種であるアライグマの生息目撃情報の推移などのデータを追加しております。また、市町村意見等にもありましたが、いじめ、不登校に対する記述が少ないという話もご指摘いただきまして、いじめ不登校に関する関連するゴールや現状課題などのデータの追加などをしてしております。続きまして、「めざす姿」の優先課題のところに関しましては、指標や参考となる団体の取り組みなどを追加しております。前に送りしましたビジョンとの違いでいいますと、ビジョンの63ページにあります。昨今、特に海洋プラスチック関係、国の方の動きも出てきていたりしますが、議会議論の中でもその海洋プラスチックの取り扱いについての質疑が行われまして、63ページの「道の主な取組」の上から4番目に、海洋プラスチックゴミなどの海洋ゴミに関するシンポジウムの開催など、こうした取り組みを道で行っておりますので、こうしたものの記載を追加しております。ビジョンの推進のところに関しましては、ビジョン推進管理の方法や見直しの考え方などについて、懇談会の皆様からいただいた意見などを基に修正しております。この点につきましては、後ほど、ビジョンの推進のところでもまた改めて御説明させていただきます。また、御意見いただきましたような策定経過に関する記載や、現状・課題をSDGsのゴールごとに検索ができるという御意見もありましたので、ゴールごとの検索表などもあわせて記載を行っております。以上がビジョン原案からの主な変更内容になります。続きまして資料3ですが、前回の懇談会でいただきました御意見、これは可能な限りビジョンに反映するよう務めたところですが、いただいた御意見に対する反映した状況、または反映できなかった場合の道の考え方などについて取りまとめております。資料4につきましては、パブリックコメントでいただいた御意見に対する対応状況です。資料5は同じように市町村からいただいた御意見になります。どちらもビジョンに反映するよう務めたところですが、こちらもその反映状況、また反映できなかった場合の道の考え方などを整理しております。続きまして資料6としまして、地域意見に関する主な意見ということで、懇談会の中でも道央圏の方が多いということで、地方の意見も聞いたほうがいいのかと御意見を伺いまして、10月に道南、道北、道東の企業・団体・市町村それぞれ2カ所ずつに意見交換などを行わせていただいております。意見としましては、これまで懇談会やパブリックコメントで出てきたような意見と同じような、まだ認知があまり進んでいない状況ですとか、勉強会やった後には盛り上がったが、やはり漠然としてしまって、その後何をやらいいのかよく分からないまま活動がしぼんでしまっている、そういった御意見などいただいております。こうしたものについても今後の推進において貴重なご意見としてさせていただきたいと考えております。資料7につきましては、先ほど御説明しました道民意識調査の結果についてとなっております。これは道のホームページの方でも公開しております。少し分かりにくいところもありますが、概略を御説明させていただきます。この調査につきましては、最初にSDGsの1

7のアイコン等を示しまして、こういった国連が定めた目標があるということを記載した上で、SDGsについて皆さんに伺うといった形で質問しております。住民基本台帳に基づく無作為抽出による郵送で調査票を送らせていただいて、郵送またはウェブによる回答という形で行わせていただいております。回答率については1500人に対して700人ぐらい。半分ぐらいの回収となっております。SDGsの認知度につきましては、「よく知っている」、「少し知っている」、この二つを合わせまして、10%ぐらいということになっており、「知らなかった」という回答が大体7割程度と、認知度についてはまだまだ低い状況にあるということがわかりました。男女別で見ますと、男性の方がやや高い、女性の方がやや低いという状況になっており、年齢別では若い人の方が認知度は低い傾向にありました。この傾向につきましては、今年の1月に札幌市役所さんの方でも同じようなSDGsの認知度調査が行われていますが、これと同じような傾向となっております。資料7の下の方に123ページとありますが、SDGsの達成のため、誰が主に行動すべきと考えますかという質問を複数回答で調査させていただきました。ここでは、「政府・地方自治体」に期待するという答えが8割ぐらいと最も高かったのですが、そのほかの教育研究機関ですとか、民間企業、個人、団体等については、概ね3割前後ということで、公的セクターに対する期待は強いという一方で、企業や道民自らが行動すべきという認識にはまだ至っていないかなというふうに見られました。資料の125ページのところにつきましては、道内で、主に取り組むべきゴールはどう考えますかと、こちらでも複数回答で伺ったところですが、ゴール3の保健が最も高く、続いてゴール11「持続可能な都市」、ゴール8「経済成長と雇用」などが続いておりました。サンプル数があまり多くないので、参考までの分析になりますが、性別や年代別の違いが見られたゴールというのがいくつかありましたので御紹介いたします。ゴール3の保健ですが、こちらは男女とも、また若年層でも、順位が上の方ですが、特に40歳以降の世代からの関心が最も高いということになっておりました。ゴール5のジェンダーについては、男女別でそれぞれ見ると、男性では1番関心が低い状況になっていました。ただ女性でも、中位ぐらいな順位になっておまして、どちらかという性別より年代別のほうが違いが見えまして、男女ともですが、若年のほうが高く、年代が高い世代ほど、関心が低いという結果になっております。ゴール8「経済成長と雇用」につきましては、性別による差というのほとんどないですが、30代以下の若年層の関心が高く、年齢が高いほど低くなる傾向がありました。こうした調査結果なども踏まえながら、今後の普及啓発やSDGs推進に参考としてまいりたいと考えております。次に資料8、今後の推進について御説明させていただきます。資料8に、ビジョンの推進管理についてフローでまとめさせていただきましたので、こちらで御説明させていただきます。ビジョンに示している指標の達成状況を含む道の取り組み状況につきましては、道のほうで、政策評価というのですべからく評価を行っておりますのでこうしたところの結果が出てきたものを取りまとめるとともに、対外的に公表していきます。また、道は国の方からSDGs未来都市に選定されまして、ビジョンの内容を基に、SDGs未来都市計画というのを作っております。国のほうでは国の自治体SDGs推進評価調査検討会という有識者会議を作っておりまして、こちらの方に毎年進捗状況等の結果を提出して、外部有識者による評価を受けることとなっております。この国の外部学識者からいただいた評価結果につ

いても広く公表しますし、また、こうした結果について、SDGsの実践者や関心のある方々に広く参加いただいている北海道SDGs推進ネットワークなどを通じまして、進捗状況について共有させていただき意見交換なども行っていきたいと思っています。また、そのネットワークを通じまして、道内の多様な主体の皆様のご取り組み状況を把握し、共有しながら、それぞれがまたそれを持ち帰って、自らの取り組みに反映していき次の取り組みに繋げていく、こうして北海道全体でSDGs推進を展開していくというふうに考えております。続きまして資料9としまして、SDGsの推進に関する今後の取り組みについてです。道としてのSDGsの推進に向けた取り組みとしましては、知事を本部長として全庁横断的に設置しております北海道SDGs推進本部の下、ビジョンに沿って多様な主体と連携を図りながら、幅広い分野・地域でSDGsの推進に努めてまいりたいと考えております。また、道の各種計画の策定や改定に当たりましては、ビジョンの内容やSDGsの要素の反映に努めて道政におけるSDGsの主流化を図るとともに、関連施策を実施してビジョン推進の実効性の確保に努めてまいります。道民意識調査のところでも御説明いたしましたが、まだ道内でのSDGsの認知度というのは低い状況にあって、普及がとても重要になってくると考えておりました。今後の普及についての当面の取り組みというのを、資料9の2番以降にまとめております。まず、来年の2月3日、日曜日ですが、かでの2・7の大会議室を予定しております。SDGs推進ネットワークの会員で交流し、意見交換などを行っていただけるようなセミナーの開催を予定しております。セミナーにおきましては外部有識者による講演、また、道からビジョンの紹介などもさせていただくほか、会員同士の自らの取り組みについて、ポスターセッションなどを行いまして、会員同士の相互交流や意見交換などを行えるようにしてまいりたいと考えております。また、ビジョンの説明やSDGsの推進に関する意見交換を全道各地域で実施してまいりたいと考えております。その他、若年層の認知度も特に低い傾向にあるということもありましたので、学校など、また企業や団体などの要望に応じまして、出前講座の実施も検討しております。今年も行ってきたところですが、これからも多様な主体と連携した情報発信ということで、さまざまな企業、包括連携協定締結企業などと連携したSDGsの普及啓発、または国が設置している地方創生SDGs官民連携プラットフォーム、こちらに道も参画しておりますので、そうした場を通じて道内におけるSDGsの取り組みについての情報発信、ネットワークの活動などを通じた普及啓発、また、ビジョンを今回まとめたところですが、最終的に100ページを超えるような大冊になってしまいましたので、リーフレットのような形を作って、皆さんにまず手にとっていただけるような形で普及啓発を図っていきたいと考えております。その他、道の各種事業における情報発信というものも引き続き継続して行ってまいりますし、道の広報ツールとしまして、道庁のロビーや広報紙など、そうしたものを当然のように使って活用していきたいと思っています。市民や民間活動等が、ビジョンに掲げるSDGsの推進に資するような事業、こうしたものへの支援についても、検討していきたいと考えております。普及啓発に当たりましては、今後とも皆様の御協力をいただく機会もあろうかと思いますが、その際にはまたよろしくお願ひしたいと思います。私の方から以上です。

(酪農学園大学・吉中 厚裕)

はい。ありがとうございます。推進ビジョン(案)と推進管理についてということで御説明いただきました。この後は意見交換をさせていただければと思いますが、その前に今日出席されていない方に個別に今のような御説明をしていただいたと思いますが、どのような御意見があったのか紹介していただけますか。

(渡邊計画推進課主幹)

資料10としまして、今回、出席出来なかった方に事前に資料をお持ちし、意見などを伺ってまいりました。ただ、定森さんに関しては、直前に被災地支援に行くということになり、来られなくなったということで御説明できていませんが、今後、またお伺いし、御説明したいと考えております。ビジョンの案に関する御意見としましては、これからSDGsに取り組もうとする人に役に立つものになって、普及啓発で基本が分かるようになっていただければ、策定の意義があると思うといった御意見や、推進管理の結果についてはしっかりと公表して、皆に分かるようにしていただきたいといった御意見、中小企業の活動としてはもっと細かい、色々な会社の自らの取組が分かるものをもっと盛り込めた方が良かったのではないかと御意見、懇談会では大枠の策定プロセスの議論が多く、中身の議論をもう少ししたかったというような御意見をいただきました。今後の推進に関する御意見につきましては、先進的に取り組んでいる企業や団体などを紹介する事例集のようなものを作っていくと、自分のこととして感じやすくなるのではないかと御意見や、教育の中でSDGsを導入していく必要があり、教師にもSDGsを理解してもらおうと子供たちに広がり、そこから家庭にも広がってより進んでいくのではないかと御意見をいただきました。また、ビジョンの地域説明会については、SDGsについてという入口で入るより、これからの北海道についてという入口で入った方がより身近に感じられていいのではないかと御意見や、今後実施する取組などにおいて、パートナーシップ、特に懇談会でも意見が出ていたメジャーグループの活用・参加という視点を大事にしていきたいという御意見を重ねていただいたところです。出前講座につきましては、道の担当者が行くのもいいが、例えば、企業経営者であれば企業で取り組んでいるの方が身近なところもあるので、外部有識者等を活用するのも効果的ではないかという御意見などもいただいております。清水さんからは、別に紙で提出いただきましたので、そちらも皆さんに配布させていただいております。前回の懇談会の時に、詳細にたくさんの御意見をいただいていたのですが、道のほうで取りまとめるに当たっても、例えば、各取組事例のところに関連するゴールをもっとたくさん入れたらいいのではないかと御意見などをいただいていたのですが、SDGsに関して、ケースバイケースで考えていくと次から次に増えてしまい、全てのゴールを載せてしまうこととなると、逆に分かりづらくなってしまふという考えもありまして、特に清水さんから強調された企業の地域人権や企業の責任などに関しては、「ビジョンの推進」の企業の取組のところに集中的に書かせていただきましたが、改めて清水さんからは企業自らにとっては自分事と分かるような身近なケースがたくさん載っていた方が良かったという御意見をいただいた後、推進ビジョンの認知を進めて、取り組みを進めていただくための最初のきっかけということで、今

後、ビジョンの内容もSDGsの取り組み自体も広がって進化していくことを期待するという御意見をいただいているところです。以上です。

(酪農学園大学・吉中 厚裕)

ありがとうございます。資料10についてと資料番号が付いていない清水さんの資料についてですね。では、自由に意見交換をしたいと思いますが、まず、この最終案、案と付いていますが、推進ビジョンがこのように出来ましたといただき、それを推進するために何をやるのか、道を中心にどんなことをされようとしているのか。ビジョンの88ページ以降が「ビジョンの推進」というところですが、今の御説明をお聞きしたところ、資料8というのは、この中でも特に「(3) 推進管理」を絵にさせていただいたものかという気がしているのと、資料9が90ページ中段の「道としての取組」のところを詳しく書いたという感じでいいですか。また、私の方から質問ですが、資料7のアンケート調査が117ページから始まっているのは、どう理解すればいいのでしょうか。

(渡邊計画推進課主幹)

道民意識調査については、「7 持続可能な開発目標(SDGs)について」とあるように、他にも項目がありまして、この前に他の六つのデータが載っています。こちらは道のホームページにも出ていますので、関心がある場合はそちらを見ていただければと思います。

(酪農学園大学・吉中 厚裕)

全体を1500人に送り、700人から回答いただいたということですね。すごいですね。半分くらい回収されているんですね。

(渡邊計画推進課主幹)

回収率は比較的大きかったです。

(さっぽろ自由学校「遊」・小泉 雅弘)

半分は多いですね。

(酪農学園大学・吉中 厚裕)

さすが道庁という感じですね。分かりました。

(さっぽろ自由学校「遊」・小泉 雅弘)

中身の前に、確認しておきたいです。今日は5人しか参加していませんが、私はRCEの運営委員でもあるので、有坂さんからは辞任の意思を伝えたというふうに聞いていますし、確か清水さんもそうかな。

(渡邊計画推進課主幹)

清水さんにはその後説明いたしまして、清水さんから提出いただいた資料にもありますが、今後も取り組みに協力できるところは協力していただけることとなっております。

(さっぽろ自由学校「遊」・小泉 雅弘)

有坂さんからは一応文書が出ていて、配られてはいませんが、意見表明がされていると思います。私も今日参加はしていますし、辞任の意思を表明してはいませんが。今回のビジョンもこれは決定稿だと思いますけれども一については、基本的には納得がいていない。初めからずっと言っていたことの繰り返しですが。懇談会の中で、もちろん今日欠席した人が皆、納得がいていない訳ではないと思いますけど、あまりきちんとした納得のいく形になっていなかった、そのために辞任という意思を表明する人も出てきた、ということ、道側はどう受け止めているのかということをお聞きしたいです。あまり良いことではないと思うんですね。

(石川計画推進課長)

有坂さんからは辞任をしたいと、文章で申し出がありました。今回の懇談会は、皆さんから色々な意見をいただいて、我々として、SDGsの推進をさせていくためにより良いビジョンを作ろうという意義で始めています。色々な意見を踏まえさせていただいて取りまとめさせていただいた。そして、それに基づいて、北海道でSDGsを積極的に進められるようにしていきたいなというところです。

(さっぽろ自由学校「遊」・小泉 雅弘)

やむを得ないということですか。

(石川計画推進課長)

色々な意見があるというのは承知をしています。

(谷内計画推進担当局長)

有坂さんからの辞任の申し出は昨日の夜にメールが入って始めて伺ったということで、我々も、その後、有坂さんと直接まだお話しはしていません。

(渡邊計画推進課主幹)

メールをいただく前ですが、先週の金曜日に御意見は伺っていました。

(谷内計画推進担当局長)

委員の皆様も色々とお持ちだとは思いますが、このビジョンを作る色々な過程の中で色々な御意見をいただきました。今回も御説明して、評価いただいている意見もあれば、小泉さんがおっしゃったように、やはり策定のプロセスにもう少し時間かけるべきだという

意見もありました。我々としては、この懇談会でいただいた意見を、できるだけ最大公約数的に反映させながら、ビジョンを作ってきました。先ほど、道民意識調査の結果もお話しましたが、やはり道民の中の認知度が10%程度ということと、説明はしていませんでしたが、道民意識調査の結果では、認知度が低い中でもSDGsの17ゴールを提示すると、それぞれゴールを目指して取り組みたいといった意見もありました。ただ、取り組みたいが何をやっていか分からないといった意見が7割ぐらいの方々に、非常にSDGsに関心を持っていただいている。ですから、このビジョンも1つのきっかけとして、できるだけ広く普及活動もしながら、取組の裾野の拡大、理解と参画というふうに拡げていく。そういうふうに、まずは進んで行きたいなと考えております。

(さっぽろ自由学校「遊」・小泉 雅弘)

欠席した人の代弁をするのではなく、私の意見ですが、やはり私が一番感じるのは、この懇談会も含めて、「参加」ということに対する考え方が違うかなというのが、この道の懇談会に参加しての思いです。繰り返しになりますけど、一番初めにこの懇談会は参考意見を言う場なのか、一緒に作る主体なのかということを確認したと思います。そして、一緒に作る主体だという回答だったかと思います。しかし、私の思いとしては一緒に作る主体とは扱っていなかったというふうにしか思えない。もちろん、アンケートも含めて、道は道で色々なことを、この100ページぐらいのビジョンを作るにはもの凄く労力がかかっているとは思いますが。けれども、多様な主体と共有するビジョン、基本的な指針という打ち出しであるからには、やはり全て道が意見を聞いて判断するというのではなく、対話の中で作り出していくということが前提だと思います。そんなことを今までの道の行政ではやってないかもしれませんが、逆に言えば、これは道の計画ではないわけです。多様な主体が共有する指針を作ろうとしたわけですね。だからこそ、言われてもいないのに、グループ別のワークショップもやったわけです。やりましたが、その内容も本文には反映されてないですね。だから納得いかないんです。正直、私が前回、策定のプロセスも書いて欲しいとお伝えして、ビジョンに書いてありますが、書いてあることのよし悪しというのもありまして、書いてあるということは、懇談会がこのビジョンを作ったようなイメージにもなりますし、あたかもこの懇談会で開催したミーティングの成果がこの中に反映されているかのようにも受け取られると思うんですね。しかし、恐らく本文の中にはほぼ反映されていない。ミーティングは、「めざす姿」についてのミーティングをやったわけですが、「めざす姿」については、骨子案の段階からほぼ変わっていません。これでは、多様な主体と共有しようという意思が感じられないです。そのことを批判しているといえますか、どういうふうに道は受け止めているのかなと思わざるを得ない。せっかく懇談会というのは、道の人に依頼を受けて集まっているわけですよ。別に意見を言うだけであれば、メールでもいいですが、あえてこういう対面で話しているわけです。しかし、意見への回答はパブリックコメントの回答と同様に、文書での回答という形でしかない。対話的な関係に全然なっていないというのが私の印象です。その「参加」という事に対してどういうふうに思っているのか、多様な主体と一緒に作りたいたいのであれば、多様な主体をどう参画させて、どういうふうに一緒に作ろうとしている

のか。その意思が感じられない。ネットワークも道が設定したネットワークのことしか強調されてないですね。道はRCE道央圏と当初、共同事務局でやろうと、RCE道央圏は民間の中で立ち上がったネットワークな訳だから、そこと一緒にやろうという意思が曲がりなりにも感じられました。だけど、道の都合で、ある種一方的に、変更になった。何か色々な事情があるのかもしれませんが、私から見れば、民間のネットワークとは一緒にやりませんというふうに言っているようなものです。道のネットワークが立ち上がったのは去年ですが、RCEは3年前からやっています。別にRCEだけではないですが。

(谷内計画推進担当局長)

我々も、このビジョンの中でネットワークのことは記載させていただいていますが、読んでいただければ別にネットワークだけがSDGsを推進していく中心の組織だということではなく、一つの推進主体的な役割を担っている組織だと思っています。何もネットワークというのは、道が中心にこの組織を運営していこうというのではなく、事務局としてお手伝いしますけれども、多様な主体の方々が情報共有や情報交換をしたりする一つの組織であって、これが北海道のSDGsを進める中心ではなく、それこそRCEの方々もいらっしゃれば、他にも色々な団体の方々がいらっしゃいますので、参画していただければいいし、連携・協力していただければいいし、これは一つの手法のことだと我々としても思っていますので、道がこの組織を中心として動いていこうというイメージでは少し違うと思います。

(さっぽろ自由学校「遊」・小泉 雅弘)

けれども、この推進管理についても、北海道SDGs推進ネットワークって書いてありますよね。

(谷内計画推進担当局長)

非常に多くの方々、160くらいの方々に参加していただいていますので、そうした方々とも情報共有をしながらということですよ。

(さっぽろ自由学校「遊」・小泉 雅弘)

私も、団体としては今後の動向を見ないと分からないと思い個人でネットワークに参加していますが、はっきり言って、ネットワークにはなってないです。メーリングリストすら作られていない。相互の情報交換をできる形にはなってない。この懇談会と同じなんです。道が意見や情報を得て、道が発信するという形をネットワークとは言わないです。

(谷内計画推進担当局長)

我々としては、ものすごく広い緩やかな組織として考えています。

(さっぽろ自由学校「遊」・小泉 雅弘)

緩やかな組織であるということと、相互に情報交換ができない形になっているということ

は全然関係ないことで、いくら緩やかでも、メーリングリストはすぐ出来ます。お金のない市民団体でもまず作りますよ。それすらないわけですよ。

(渡邊計画推進課主幹)

物理的なことをいいますと、最初はメーリングリストにしたかったのですが、メンバーが100人を超えますと有料になってしまいました。調べが足りなかったかもしれないですが。また、ビジョン策定の過程でスタッフの労力を取られてしまったということもありまして、ネットワーク活動があまり出来ていなかったというのは反省点と思っています。なるべくこれからそれを充実させていかなければいけないというのは考えておりました。まだ始まったばかりということで動きも少ないということもありますが、会員の皆様には情報共有したいものがあるれば、こちらに教えていただければ発信しますとは言ってはいます。

(さっぽろ自由学校「遊」・小泉 雅弘)

私が言いたいのは「参加」ということをどういうふうに捉えているのかということです。私は、活動が活発かどうかとか、会員数が多いかどうかということを行っているのではなく、先ほどのアンケート結果を見てもそうですが、道というのは一応、ある種の権威なので、道が呼びかければたくさん集まるというのはそうだと思いますし、そのことはそのことでいいことだと思います。けれども、道が意見や情報を貰い、道が発信するというのはネットワークではないです。ネットワークというのは網の目のようなものであって、相互に繋がりがあがるものがネットワークです。最低限、メーリングリストぐらいなければ、ネットワークと名乗るべきでもないです。RCEと共同事務局にならなかったのは色々な経緯があると思いますが、共同事務局でないのであれば、どういうふうに関連するのかということも、少なくとも道のほうから提示すべきでしょう。

(渡邊計画推進課主幹)

それに関しては認識の違いかもしれませんが、共同事務局できずに、道のみでとなってしまうという話をRCE側とさせていただいたときに、RCE側としても、道のネットワークとどういうスタンスで行くのかというところを検討するというふうにお聞きし、その回答を待っていましたが、中々返事が来ないというのが正直、担当としての素直な印象なんです。

(さっぽろ自由学校「遊」・小泉 雅弘)

別に私はRCEの立場でここに参加していませんが、なんといいですか、多様な主体と一緒にやろうという姿勢が、今回の3回程の懇談会という場に出た中で、正直、全く感じられない。中身にも反映されたという印象はない。であれば、「多様な主体と共有する基本的な指針」という打ち出しをやめて欲しいです。「道が推進する基本的な指針」というふうにならなくて欲しいです。

(谷内計画推進担当局長)

我々としては非常に色々な御意見を伺いながら、文言の一つ一つ全てに御意見が反映されているかどうかというのは、分からないところもありますけれども、いただいた趣旨のようなことは、かなりこのビジョンの中に網羅的に、「めざす姿」や対応方向などそういったところに、考え方を盛りこませていただいているつもりですし、多様な主体の方々と一緒にSDGsをやっていこうということに関しては、今年、SDGsの取り組みを始めてから、色々な企業・団体の方ともそうですし、今回の有識者懇談会に参加されてる方々とも、色々な場面で話しをさせていただきました。また、今回、地方にも行ってお話をさせていただいていますし、そうした中で、何もこれがゴールではないと考えていますので、こうしたビジョンの策定も一つのきっかけとして、本当にこれからも、色々な方々と取り組んで、一緒にやっていきたいという気持ちは、当初から変わっておりませんので、その点は御理解いただきたいなと思います。

(さっぽろ自由学校「遊」・小泉 雅弘)

前から言っていますが、これがゴールでないのであれば、ビジョンをうたわないで欲しいということです。ビジョンというのは将来像なので。SDGsで何をやっていいかわからない人が多いというときに、私も3年間ぐらいSDGsに関わってきていますが、やりながら分かるのは、やはり自分で将来像を考えないと、自分のものにはならないということです。SDGsにこんな目標があるということを取ってきて、あまり意味はないです。

(谷内計画推進担当局長)

ゴールではないと申し上げたのは、このビジョンの策定がゴールではないという意味で申し上げたんですが。

(さっぽろ自由学校「遊」・小泉 雅弘)

ビジョンの策定は、ある意味ゴールを考えるのがビジョンを考えるってことですよね。

(谷内計画推進担当局長)

ビジョンの策定が本道のSDGsの推進にとってゴールではないという意味で申し上げているつもりなんです。

(さっぽろ自由学校「遊」・小泉 雅弘)

そうなんですけれども、ビジョンというのは、2030年の将来のあるべき姿を考えることですよね。

(谷内計画推進担当局長)

北海道がこれからSDGsを推進していく上で、このビジョンの策定という行為がゴールではないということをお願いしているつもりなんです。

(さっぽろ自由学校「遊」・小泉 雅弘)

もちろんそうですけれども、ゴールを考えるのがビジョンです。

(谷内計画推進担当局長)

ゴールの意味が少し違いますよね。

(さっぽろ自由学校「遊」・小泉 雅弘)

2030年の将来像を示すのがビジョンですよ。

(谷内計画推進担当局長)

そうですね。SDGsを推進していく上での色々なステップという意味での一連の流れとしてのゴールではないということをおっしゃっているんです。

(さっぽろ自由学校「遊」・小泉 雅弘)

2030年の将来像を多様な主体と共有したければ、多様な主体を巻き込んで2030年の将来像を考えるプロセスがなければだめだと言っているんです。言っているし、時間がない中でやっていますよね、まがりなりにも。なぜそれを尊重してくれないんですか。そういうプロセスを尊重しているのがSDGsではないですか。

(石川計画推進課長)

小泉さんからも何回もお聞きしているんで、それは理解しているつもりです。

(さっぽろ自由学校「遊」・小泉 雅弘)

取り入れられていないから何回も言っているんです。では、今後のプロセスではどういふふうにならせますか。

(石川計画推進課長)

ですから先ほども申し上げましたけれども、北海道ネットワーク。

(さっぽろ自由学校「遊」・小泉 雅弘)

全然話がかみ合っていないですよ。北海道が立ち上げたネットワークは、市町村や色々な企業・団体が入っているのかもしれませんが、それは北海道が立ち上げたネットワークであって、多様な主体ではない訳ですよ。

(石川計画推進課長)

先ほども申し上げましたけれども、北海道SDGs推進ネットワークだけと連携をするわけではなく、我々は色々な方々とも連携をさせていただきますし、それぞれ主体ごとに勉強

していただいてもそれはもちろんやっていただくためにビジョンを作っているわけですから、我々が全て束ねてSDGsを一手に引き受けて推進するのではなく、それぞれの方々にSDGsについて御理解をいただいて、それぞれの立場の中で進めていただくきっかけにビジョンがなってくればいいなという思いで作っていますので、そこは御理解いただきたいと思います。

(谷内計画推進担当局長)

今、小泉さんがおっしゃったように、このネットワークが多様な主体でないというのはどういう意味でしょうか。

(さっぽろ自由学校「遊」・小泉 雅弘)

多様な主体、もともと多様なステークホルダーと言っていましたよね。多様なステークホルダーの考え方を改めて欲しいということを何度も言っていますよ。その一つのモデルが国連のメジャーグループですよ。だから多様な主体というのは別に企業とか団体とか行政とかという話ではなく、例えば、女性であるとか若者であるとか先住民族であるとか農民であるとか、もちろんこの中に企業やNGOも入りますけれども、ベースになるのは、その課題に直面している人たちです。そのグループです。

(谷内計画推進担当局長)

ネットワークは別にそういう人方を否定しているわけでもなくて、ネットワークはどなたが入ってもいいですし、企業の方や団体・NPOの方も多様な主体のお一人だと思っていますが。

(さっぽろ自由学校「遊」・小泉 雅弘)

そういうことではなく、私がわざわざ頼まれてもいなのにグループ別のワークショップを呼びかけたのは、それはもちろん道民の中に女性もいますしアイヌの人もいますよ。だけどそういうことではなくて、グループとしての見る視点が違うわけですよ。道庁の職員が考える2030年にこうしたいということと違うということは、この限られたミーティングから出てきた成果でも明らかなわけです。そのことをどう受けとめるかということです。今後の進め方についても、そのことを受けとめるには、そういうグループを道が率先して、道の下に置くということではなく、そういうグループとの継続的な関わりを保証するということですよ。それを国連はやっているんだから。

(石川計画推進課長)

全く排除もしていませんし、差別もしていませんが。

(さっぽろ自由学校「遊」・小泉 雅弘)

排除はもちろんしませんよ。SDGsというのは課題を解決するための取組なので、どの

ように積極的に課題を解決できるのかということも道も考える必要があると。そのヒントが、SDGsなり、国連の取り組みにあるんじゃないかということです。

(石川計画推進課長)

同じことの繰り返しになるので、他の方の御意見も。

(酪農学園大学・吉中 厚裕)

はい。他の方からも是非、御意見をいただきたいと思います。

(さっぽろ青少年女性活動協会・菅原 亜都子)

出来た後のビジョンに関してはもう決定したものだということで、直していただいたところは本当にありがたいというふうに思っています。意見が出たけれども、足りないところや反映されなかったところについては、今後も見直していくもの、私たちも含め、道民皆さんで議論していくものだということで認識しています。ビジョンとは別に、今、小泉さんがおっしゃっていたこれからの推進の部分でお伺いしたいのが、今回、ネットワークについては時間がなかったというところもあり、相互のやりとりが出来る作りには今のところなっていないとおっしゃっていたと思いますが、実現出来ていないにしても、目指すような形はどういったものなのでしょう。北海道が事務局になっていますが、事務局はあくまでも事務なので、例えば、私も小泉さんと同じように個人としてネットワークに登録させていただいていますが、私がこのネットワークで何かを提案したり、呼びかけをしたりするといったことが理論上できるのかということと、実際に仕組みとして出来るのか、そういったものをどうしていくのかということの最終のイメージを教えてくださいということが一つです。もう一つは、先ほどおっしゃられていたことと関連しますが、ネットワークに足りていないと思っているものがあれば教えてください。前回の懇談会でお伝えしたことです。女性の方たちは自分の課題を個人的な課題だと思っていて、社会的な課題だと思えず、中々話せずにいます。これは自分が我慢すればいいと思って話さない。そういった方達は、機会が平等に与えられているからということでは、中々参加しづらいと思います。参加しにくい方たちにどうやって参加してもらおうのかということでも工夫が必要だと思います。ですので、ネットワークに足りていない、是非参加して欲しいと思う方がいれば教えてください。多様性で足りていない部分があれば教えてください。また、それに対して、どのような工夫をしていくかということがあれば教えてくださいと思います。

(石川計画推進課長)

ネットワークの相互のやり取りの仕組みですが、先ほど、直接メーリングリストがないので、やり取りができないという御指摘をいただきました。我々もなるべく相互にやりとり出来るようにしたいつもりで立ち上げていますが、現状のシステム上、一度、道にいただいて、道から発信するというやり方になってしまっています。ネットワークの皆さんには発信したい情報があれば御連絡ください、道から会員の皆さんに発信します、というのが現状です。

ただですね、相互にとっても中々難しいので、先ほど少し御説明させていただいたような、交流セミナーでネットワーク会員の方にお集まりをいただいて、フェイストゥフェイスで情報のやり取りや意見交換が出来るような仕組み、パネルを出して情報発信できるようなコーナーを設けようと現在考えています。

(さっぽろ青少年女性活動協会・菅原 亜都子)

ネットワークの最終というか、今はメーリングリストに関して、色々な御事情があると思いますが、最終的には、ネットワークのシステム上の仕組みとしても、相互に交流できるようなものを作っていきたいということですか。

(石川計画推進課長)

年1回は定期的に集まれるような場を作りたいと思っています。けれども、ネットワークのシステム上でどのようにやるのかというところは少し課題がありますので、現状では、一度、我々が情報をもって、情報提供するというやり方だけでやっています。

(さっぽろ青少年女性活動協会・菅原 亜都子)

現状はそうだけれども、その課題を解決していき、相互に意見交換や何か提案できるようなものにはしていきたいと考えていらっしゃるということですね。

(石川計画推進課長)

それはやり方も含めて、また検討させていただければと思います。

(谷内計画推進担当局長)

メーリングリストの件も上手くできるのかも含めて検討させていただければと思います。

(さっぽろ青少年女性活動協会・菅原 亜都子)

それこそ、得意な方がたくさんいらっしゃると思いますので、得意な人達に、色々なテクノロジーを使って仕組みを作るということは、お任せしていいのかなと思います。また、年1回の顔合わせといっても、やはり地理的な問題もあると思います。今回のセミナーも、札幌ですよ。どうしても札幌でやっしまいがちだと思います。ですので、地方の方、札幌以外の札幌に来づらい方も多分参加は難しいというふうに思いますので、そこをどうやってクリアしていくのかということも是非考えていただきたいなと思います。

(酪農学園大学・吉中 厚裕)

ありがとうございます。ネットワークといいますが、プラットフォーム、ウェブ上での意見のやり取りの何が難しいのかなとも思いますが。国連でもごく普通にオンラインディスカッションをやっていました。登録さえすれば、事務局は全くノータッチで、登録した人達で

盛り上がってやってもらうということはごく普通にやっていて、事務局の方もお金なんて全然かからずに、凄く有効に使ってました。是非、少し考えていただければと思います。

(さっぽろ青少年女性活動協会・菅原 亜都子)

ネットワークの多様性に欠けている部分があるとしたら教えてください。

(石川計画推進課長)

ネットワークの会員数は現在 160 ほどとなりましたが、市町村が 3 割ぐらい、企業も 3 割ぐらいです。教育機関は少し少ないです。市町村の方になるべく入ってもらいたいという思いと、教育関係にももっと参加していただきたいとは思っておりますので、今回のビジョンが出来上がった段階では、学校などの教育関係にも PR して行こうと思っています。

(さっぽろ青少年女性活動協会・菅原 亜都子)

例えば、ジェンダーの視点で見たときに関わりがないのか、取り残されやすい方達の視点がきちんと入っているのかといった、そういった視点でネットワークの構成員を見た時にどうなのかというのが気になります。

(渡邊計画推進課主幹)

構成員として団体の名前が入っていただいているので、個人でしたら性別、名前を見れば分かりますが、団体の場合、ジェンダーの区分というのは分からないんですが、

(さっぽろ青少年女性活動協会・菅原 亜都子)

例えば、女性団体が入っているのか。

(渡邊計画推進課主幹)

女性団体の方も入っていただいています。アイヌの方の団体にも入っていただいています。労働組合関係も一部入っていただいているところもあります。

(さっぽろ青少年女性活動協会・菅原 亜都子)

そういった視点で見た時に、参画していただきたい方達はいますか。

(渡邊計画推進課主幹)

資料 8 の中段、ネットワーク会員の構成員のところに、今おっしゃられているような区分で記載しています。団体で言いますと、青少年、農業、女性、障害者、高齢者、外国人などの団体の方に入らせていただいております。

(さっぽろ青少年女性活動協会・菅原 亜都子)

もう既にこれは入っている団体ですか。

(渡邊計画推進課主幹)

入っているところです。

(酪農学園大学・吉中 厚裕)

市町村が30%とおっしゃっていましたが、例えば、青少年団体は何%、農業関係の団体は何%など、どれくらい入られているのかというような分析はしていますか。

(渡邊計画推進課主幹)

すいません。その分析はまだ出来ていません。

(酪農学園大学・吉中 厚裕)

他に何かありませんか。柏村さん、何かありませんか。

(Ambitious Farm・柏村 章夫)

しっかりと読み込めていませんが、案を見た時には原案とあまり変わってないという心証を受けました。けれども、前回の原案も、入り口としては十分な内容だと僕は思っています。反映されているかどうかの受けとめ方は色々ありますし、そもそも初めからずれがあったまま進んできているので、こういう状況になるのはしかるべきかと感じています。ネットワークに関しては、今後、活用されていく中で、僕自身も加入もしていないので偉そうなことも言えないですが、加入している団体だけではなく、各業界の方や、先ほどから出てくる、重要な意見を聞く団体に対して、あえて意見を聞くような場面を作れば、より多様な意見を聞くことができ、より進んでいくのかなと思います。まずは行動して、いかに自分事に落とし込んで動ける人を増やすかというところだと僕は思っているので、そういう意味では、いいのかなというふうに思いました。

(さっぽろ自由学校「遊」・小泉 雅弘)

質問ですが、今度の2月の交流セミナーはネットワーク会員向けですか。

(石川計画推進課長)

ネットワーク会員向けですが、当日まで加入できる形にしています。

(さっぽろ自由学校「遊」・小泉 雅弘)

会員以外には開かないということですか。

(渡邊計画推進課主幹)

会員の方々の交流の場として考えていたところですが、入会すると、何かやらなければいけないといったことや会費が発生するといったことはないのです、是非入っていただければと

思っております。

(谷内計画推進担当局長)

広くこのセミナーを御案内しようと思っておりますし、セミナー参加していただけるのなら、出来れば当日までに会員になっていただきたいという趣旨ですので、会員にはならないが参加したいという方を排除するつもりはありません。募集もネットワーク会員の方だけに案内するのではなくて、広くホームページ等で募集しております。

(渡邊計画推進課主幹)

ビジョンのパブリックコメントの時と同様に、全市町村、また、関係する団体などにも案内を出しておりますので、会員だけに案内しているものではありません。

(谷内計画推進担当局長)

会場のキャパシティの問題もありますので、何百名もというわけにはいきませんが。そもそも、そこまで来ていただけるかどうか分かりませんが。

(JICA 北海道・野吾 奈穂子)

道庁の「推進ネットワーク会議」は、SDGsに関わっている160の団体・個人の皆さんと情報共有や意見交換をして、こういう事例もあるということ幅広く知って、前に一歩進むための一つのネットワークなのかと受け止めました。JICAからのお願いとしては、今後、SDGsに関連する活動の年間計画やスケジュールを懇談会メンバーやネットワーク会議の皆さんと共有していただきたいです。今回の交流会の日程が、RCE・JICA共催のフェアトレードイベントと重なってしまいました。今、札幌でもSDGsもフェアトレードも具体的なアクターが本当にたくさんいて、色々な活動が随所で行われていると思います。せっかくネットワーク会議ということで、相互に知り合う場が設けられているにも関わらず、参加できないのももったいないです。お互いに今後の年間計画を立てて、どういう動きがあるのかというところを幅広く共有しておくこと今後いいのかなと思いました。また、ビジョンについて、今回、その指標に関するコメントもかなりあったかと思いました。参考指標の達成状況を道庁の方でまとめていかれると思いますが、今後、このビジョンがどのような成果指標なりで図られていくのかというところを確認させていただきたいと思います。

(酪農学園大学・吉中 厚裕)

まず、1点目のカレンダーの共有のようなことは、最低限、ネットワークでやっていただきたいと思います。

(渡邊計画推進課主幹)

会場を押さえた後にお話が聞き、調整がきかなかったということもありましたので、今後は連絡を密にしていきたいと思います。

(酪農学園大学・吉中 厚裕)

そのお話をお聞きして思ったことは、もう 20 年も前から色々な所でネットワークというものがあり、それが堅いグループみたいなものになっていくということがよくあることだと思っています。ですので、この推進ネットワーク会議も閉ざされたものにならないようにして欲しいと思います。メールアドレスさえ登録すれば、誰でも自動的に情報がばんばん入ってくるような形にさえしておけば、それで何がだめなんだろうという気もしています。その人たちの誰でもが見ることができる共有カレンダー、SDGs 共有カレンダーみたいなものがあればいいなと思います。イベントやディスカッションも誰でもすぐ呼びかけて始められるような、先ほども緩いというお話もありましたが、開かれたネットワークの方がいいのではないかという気がします。さらに、ただ開かれているのではなく、先ほど、菅原さんがおっしゃったように、足りてない分野あるいはメジャーグループの中で該当されていない人にどのように伝えていくのかという事も、是非考えていただければと思います。そして、指標について、参考資料として挙げられているものでは全く足りてないという意見が前回もありました。これからこのビジョンができた後でも、色々な専門家の人にもっと入ってもらい、SDGs を本当に達成するのであれば、そのための指標がいるのではないかといった意見が出ていたと思います。その指標づくりのようなものを是非やっていってほしいといひます。どこでどういう仕組みでやっていけばいいのか、アイデアはありませんが、ネットワークというものが、その出発点になっていくといいのかなと思ったりしています。今の野吾さんからのご質問は、参考指標として書いてあるけれども、それがこれから色々なところで常に参考とされるものなのか、その時にはどういう仕組みで参考されて評価されるのかといった御質問だと思います。

(石川計画推進課長)

指標については色々な御意見をいただきまして、我々としても大きな課題として受けとめさせていただいております。ただ、今やれることとしては、先ほど、資料 8 の中で御説明させていただきましたが、参考指標の達成状況・進捗状況が今どの辺にあるのかというのは、道の政策評価の中で毎年度把握させていただいて、ネットワーク会議を通じて、ネットワーク会議だけではありませんが、道民の皆さんに公表させていただいて、共有していくというようなところがまず第一歩かなと思っています。ネットワーク会議を中心に情報共有させていただく中で、もっとこういう指標があるとよいか、もっと目標値を上げるべきではないかといった御意見が出てくると思います。そうした段階、御意見をいただく中で、どのように検討していけばいいのかということも、このネットワーク会議の中で皆さんと意見交換が出来ればと思っています。ただ、そこまで今、中々書ききれないものですから。イメージとしてはそういうふうになりたいと考えています。

(JICA 北海道・野吾 奈穂子)

今後、この懇談会はどのようなふうになりますか。

(石川計画推進課長)

最後に申し上げようとも思っていましたが、定期的にやる懇談会はこれが最後だというふうに思っています。この懇談会は委嘱とかではなく、その都度お集まりいただいているという形で行っています。何かあれば、このようにまた意見交換をさせていただくというようなことは当然出てくるかとは思いますが、定期的にやる懇談会は今回が最後となります。

(さっぽろ自由学校「遊」・小泉 雅弘)

この懇談会が最後になるということは、元々、一年の予定だったのでそうだろうなとは思っていましたが。繰り返しになりますが、今後、どのような形で道は、多様な主体とともにSDGsの取り組みを進めていこうとしているのでしょうか。先ほどの指標もそうですし、今までにも何度も言いましたが、レビューや推進状況の確認についても、やはり多様な視点からのチェックが必要だと思います。せっかくSDGsという国際基準を地域でやっというのであれば、そういった部分をきちんと地域の行政、政策策定とか政策推進のプロセスに盛り込むということを、他ではやってないと思いますが、やっていないからこそ、それを入れて欲しいです。

(石川計画推進課長)

おっしゃる意味は良く分かっているつもりですが、道は道でSDGsの全庁的な組織を作っていますので、その中で取り組みを進めていきます。先ほどの野吾さんのお答えとも被りますが、今後の推進は画一的ではないと思っています。SDGsはかなり分野も広いですし、全てのステークホルダーの方に取り組んでいく事柄ですので、それぞれの事柄によって、集まってお話する方々の対象も違うでしょうし、指標をどうしていくのか、今後の推進管理をどうしていくのかといったことも、それぞれケースバイケースだと思います。先ほども少し議論がありましたが、ネットワーク会議の中で、今の状況を皆さんと共有をさせていただいて、その上で今後どうするのか、具体的にどういう人が集まってどういうことを考えていくか、もっと進めていくためにどういう人が集まってどういう話をするのか、ケースバイケースで内容が変わると思いますので、今の段階でこうするということは中々難しいのかというふうに思っています。色々な方々と情報共有をさせていただきながら、北海道の中でSDGsを推進するためにどういうことが出来るのかということは、この中で考えていくと思っています。

(さっぽろ自由学校「遊」・小泉 雅弘)

そのネットワーク会議というのは、定期的に会議をするイメージですか。

(石川計画推進課長)

先ほど言いましたように、今のところ、年1回は交流セミナーのような形で顔を合わせるような会を持つと思っています。

(さっぽろ自由学校「遊」・小泉 雅弘)

話し合いをする場ではなく、セミナーみたいなものですよ。

(石川計画推進課長)

その中で出てきた課題について、指標を作るといいのではないかとするとまた変わりますよね。医療関係の指標を作ろうとすれば、医療の専門家に入ってもらわないとならないでしょうし、地域づくりの観点で指標がいるとなれば、地域づくりの関係の方にお集まりいただくことになりますよね。ですので、一律にこういう形でこういうことをしますというのは画一的には決められないということを申し上げていました。色々な方々とまずは情報共有させていただいて、年1回意見交換をさせていただくというところをまず決めています。

(酪農学園大学・吉中 厚裕)

年1回というところは、あまり強調されないほうがいいのではと思いました。

(石川計画推進課長)

今のところはですね。

(酪農学園大学・吉中 厚裕)

フェイストゥフェイスももちろん重要で、定期的に顔合わせ、こういう直接話せる機会も重要だと思いますが、北海道は広いということもあり、時間的な問題としても、フェイストゥフェイスも難しいこともあるかと思います。今回もお集まりいただけなかった部分もあると思いますし。ですので、やはり先ほど菅原さんがおっしゃっていた、自由にメーリングリストなりオンラインディスカッションができる場を設けてさえいれば、いつだって議論は出来ますし、そこから、こういう人が足りないから呼びましょうといったことや、こういう分野の議論をしなければいけないといったようなことが、どんどん出てくるのではないかと思います。

(石川計画推進課長)

ネットワーク会議のお話集中してしまっただけで申し訳ないですが、色々な形、例えば、地域説明会の中でも意見交換をしますし、先ほど、ネットワーク会議が札幌だけになっているというお話もいただきましたが、地域でも色々な意見交換をやりようと思っていますので、そういった中で色々な意見をまたお聞きしたいと思っています。

(JICA 北海道・野吾 奈穂子)

今、道庁では総合政策部の方がこのビジョンを主導で取りまとめられていますけれども、例えば、医療分野や農業の分野といった場合、その実務的なことを担当する部局が別にあると思うので、道庁の中では、そういった担当部局の方を巻き込んだ意見聴取を進めたり、

行政の方針を決めていくプロセスの中でそういったグループの方々と上手く意見交換をして、行政に反映させていく機会が増えていくきっかけになるといいかなと思いました。

(酪農学園大学・吉中 厚裕)

この資料8の絵は何に使われる予定ですか。公表するものではなく、この懇談会用に作られたものでしょうか。

(渡邊計画推進課主幹)

そうです。ただ、懇談会の資料はインターネットで公表しています。

(酪農学園大学・吉中 厚裕)

そういう意味では公表されますと。少し気になったのは、道の評価、国の評価からの矢印が一方向でネットワークに向いていて、ネットワーク会議からは何の矢印もなく、後ろに何か黒い丸がありますが、何を意味しているのかよく分かりません。あまりにきれいになっていて、ヒエラルキーみたいに少し気持ちが悪いように感じています。一体的な管理ということで下にあって、推進本部、多様な主体と、そして上に戻ってきていますが、きつともっとぐちゃぐちゃした姿になるべきなのではないかと思います。SDGsの進め方としては。そういったところももう少し気にしていただけるといいかと思います。

(石川計画推進課長)

ぐるぐる回っているというイメージをお示しをしたかったものです。PDCAサイクルじゃないですけども、取組がどんどん循環していくイメージです。

(酪農学園大学・吉中 厚裕)

それは分かります。私が言いたいのは、道の評価を受けてそれを共有するのはネットワークですか。違うのではないかということです。ネットワークでも議論をして、それが道の評価にも活かされるといったことや国にも伝わるといった、双方向になるのではないかと思います。一方向の矢印、上から下というのが、決定的に何かを表しているのかのよう感じています。

(さっぽろ自由学校「遊」・小泉 雅弘)

もう1点すみません。もう一度お聞きますが、色々な分野ごとに色々な作りが必要だということはどう思うと思いますから、それでいいですが、私がずっとこだわっているのは、もう少し端的に言うと、国連のメジャーグループのようなグループを形成する意思はないですか。

(石川計画推進課長)

今の段階ではないです。

(さっぽろ自由学校「遊」・小泉 雅弘)

何故ですか。何故というのは、これと持続可能な開発ということは、ある意味切っても切れない関係だから言っているのであって、リオサミットの時からずっと、少なくとも国際的な場ではこれらのグループの関与ということが前提となっているわけです。どのテーマを話すといった話ではなくて、どの主体が関与することが持続可能な開発にとって重要なのかという問題なんですよ。今回、限られたグループのミーティングしか出来ませんでした。個人的には、やはり持続可能な開発というテーマを議論する上で女性と先住民族というのは欠かせないと思っています。その視点なしに、持続可能な開発をうたってはいけないと思っています。ですので、今の時点でないというのではなくて、何故ないのですか。

(石川計画推進課長)

ないというのはですね、今、既存の団体や機関がありますので、そこに対して我々は丁寧に意見をお聞きしてビジョンに反映したつもりです。既存のものがない、何も無いものももし仮にあれば、それは改めてそういう組織や団体に集まっていただき、お話を聞く必要があったのかもしれませんが。

(さっぽろ自由学校「遊」・小泉 雅弘)

既存の団体もちろんありますが、吉中さんの方が詳しいと思いますが、国連の中で、世界中の何百という女性のグループが集まって女性グループを作っていたり、先住民族は先住民族で作っていたりとしていると思うんですよ。

(石川計画推進課長)

私の思いとしてはですね、北海道の中に、そういったメジャーグループに相当する団体や機関が既にある中で、今回のビジョンを作るために、そういう何か新しい集まりを作る必要性は感じていなかったの。

(さっぽろ自由学校「遊」・小泉 雅弘)

私は必要性を感じています。何故かという、もちろん団体はありますし、アイヌ協会など色々あります。しかし、このSDGsの推進に継続的に関与する作りではないじゃないですか。

(石川計画推進課長)

ですから、それは既存の団体がございますので、そこに対して、当然ネットワーク会議ももちろん排除してる訳でもないです。

(さっぽろ自由学校「遊」・小泉 雅弘)

排除するという話ではなくて、道が積極的にどう考えるのかということを知っているんで

す。つまり、そういった主体を重要視する姿勢はないということですか。

(谷内計画推進担当局長)

小泉さんがおっしゃっているSDGsという切り口で多様な主体の方々とどう連携するかというのは、一つは、SDGsというものをどうやって推進して、認知度を高めて参画してもらおうかという大きな意味でのSDGs、そもそもSDGsを知らないという方々も多いわけですから、このビジョンを使いながらSDGをどうやって広めていくか、そのためにはそもそもSDGsに取り組もうということをして市町村の方、道民の方々、いろんな方々と意見交換していきますし、もう一つはおっしゃったようにそれぞれの行政分野ですよ、行政分野というか政策分野というか。

(さっぽろ自由学校「遊」・小泉 雅弘)

行政分野を言っているのではないです。主体ですよ。

(谷内計画推進担当局長)

施策の分野としては、例えば、女性でしたり。

(さっぽろ自由学校「遊」・小泉 雅弘)

施策の分野として、女性政策とか先住民族政策があるのはもちろんありますよ。そうではないということを出せるのが、SDGsですよ。

(谷内計画推進担当局長)

そういった取組はですね、道庁がやる政策や施策の中では、先ほど野吾さんもおっしゃったように、それぞれの各分野の取り組みの中で、今回のこのビジョンもそうですし、SDGsというものを計画や方針に反映していこうと。その時に、道庁のそれぞれの仕事の中で、例えば、女性、女性団体の方々ですとか、農業でしたら農業団体ですとか、そういったところと意見交換しながら取組を作っているわけですし、そこでSDGsの要素をしっかり反映させていきたいと思いますというのがこのビジョンの趣旨ですし、道庁のこれからの仕事の進め方だと思っています。

(さっぽろ自由学校「遊」・小泉 雅弘)

これまでの道庁のセクションの中にももちろん女性政策をやるセクションはあるだろうし、アイヌ政策をやるセクションはありますよ。ですけど、SDGsはこれまでのことをやるというお話ではないわけですよ。持続可能な開発という、今とは違う社会のあり方をどのようにしたら実現できるのかと。そのときに、例えば女性というのは女性政策という縦割りの一つという位置付けではないですし、先住民族もアイヌ政策という中に閉じ込められることではないんです。持続可能な開発という概念において、ここは欠かせない主体なわけですよ。

(谷内計画推進担当局長)

何か全く今までと違う新しいものということですか。

(さっぽろ自由学校「遊」・小泉 雅弘)

そうですね。そういうふうに捉えないとだめですよ。今までの持続不可能な社会だから持続可能な開発をしなければいけないということです。

(谷内計画推進担当局長)

役所でもそうですが、色々な企業や団体の取り組みががらっとリセットというわけではなくて、取り組んできている中で、SDGsというものを取り入れながらやっていこうというわけですね。

(さっぽろ自由学校「遊」・小泉 雅弘)

がらっと変わるかどうかは、その取り組みによると思いますが、だから、バックキャストイングと言っていますよね。現状から始めてはだめなんですよ。こうあるべきだということから今を見つめるわけですよ。このビジョンがだめだと言っているのはそういうことです。バックキャストイングになっていないということです。

(さっぽろ青少年女性活動協会・菅原 亜都子)

先ほど、ネットワークの登録団体の中に女性団体が入っているとおっしゃっていました。今、会議中に慌てて確認しましたが、全ての団体が分かるわけではないですが、1団体だけ、ここの道立女性プラザの指定管理の女性協会さんが入っています。それ以外は入っていないように見えますが、それで女性団体が入っているとは、私だったら言えないなというふうに思います。例えば、道内にはDVの支援をしていましたり、シェルターを運営している民間団体がいくつかありますが、そこは一つも入っていないと思います。そういう意味ではやはり、この中には全く多様性はないと思います。もちろんスタートしたばかりで、全ての多様性を揃えるという話ではなく、不足しているということをもっと知っていただきたいということです。既に民間の団体で道内にたくさんあるからいいということではなく、そういった団体さんにきちんとSDGsの主体として関わって欲しい、協力して欲しいと私だったら思います。ですので、そういう視点でもう少し細やかに、本当に多様な主体が参画しているのかどうか、今出来なくてもいいので、何が足りていないのかというところを、常に私たちも一緒に考えていきたいなということを思いました。

(酪農学園大学・吉中 厚裕)

ありがとうございます。小泉さんがと菅原さんがおっしゃったことを聞いていて思いましたが、このネットワークがどのようにこれから発展していくのか、あるいはしぼんでいくのかは分かりませんが、その中にメジャーグループ、ディスカッショングループみたいなものを初めから用意しておいて、新たに入ってくる方が、女性問題に興味があればそのディスカ

ッショングループに自由に入れるというような、何かそういうことを用意しておく、多様性を確保していく上でも分かりやすくなるのではないかと思います。どのディスカッショングループに入っているのかどうかを見ていくと、SDGs全体を見渡すことが少し出来てくるのではないかなと思います。何かそういったものも考えていただくといいと思います。メジャーグループという一つの団体を作ると言っているわけでは全くないと思います。そうではなく、それに関わっている人たちが集まって意見を交換、もっと密に意見交換できて、理想的にはそこから一つの提案として出てくるといったことだと思います。そういう場として、このネットワークが上手く使われていけばいいなという気がしました。

(谷内計画推進担当局長)

メーリングリストが上手くできれば、そういった個別のテーマごとに議論できるような場をネットワークの中に作れるかもしれないですね。

(酪農学園大学・吉中 厚裕)

あるいは、メジャーグループのカテゴリのようなものを作っておいて、登録する際にどれに入りたいのかということを知るといったやり方もあるのかと思いました。30分に終わると約束しましたが、他に何かありますか。小泉さんが初めに、有坂さんが辞任するというお話しをしましたが、僕のところにもメールを貰っていて、少し彼女と電話でお話ししました。RCB北海道中央圏協議会の事務局長として、メッセージを寄せましたと彼女は言っています。今日はたまたま予定も合わず、出席できないということと、最初のほうにお話しもありましたが、この懇談会は委嘱状を貰っているわけではないので、辞任というものもどうなのかという話も彼女はしていました。書いてあることをもう一度、よくよく読み返してみると、私も少し言いたかったことを言ってくれているところもあります。小泉さんも運営委員の一人としていらっしゃるのです、私が間違っているところや足りなかったことなどあれば補足していただければと思います。どんなことを彼女が書いていたかということも簡単に共有させていただきたいと思います。もう皆さんとも共有されている意見ですし、私も何度も言っていますが、時間的な制約もあり、十分な議論が出来ないまま策定されてしまったことは残念です。今回、何らかの政策を決定するに当たり、従来の手法、考え方では多様な意見を反映することは難しいと実感いたしました。先ほど、小泉さんがおっしゃったSDGsというのは、まさにトランスフォーメーションを求めているということからすると、何か今までどおりの考え方では上手くいかないのは自明なものだと私も思います。今回のビジョンづくりというのは道庁にとってのトランスフォーメーションのきっかけになればいいなと期待しています。またその後、特に、北海道において問題を抱えている地域、人々、自然環境などの存在が明らかにされないままにビジョンが策定されたことは根本的に問題であると言えます。北海道には「取り残されている」存在や問題として、具体的な例が書かれておりますが、すぐにでも解決しなければならない問題が山積しています。これらの問題が議論されないままにビジョンが策定されたことは、「最も遅れているところに第一に手を伸ばすべく努力する」ということがどうもできていないのではないのでしょうか。それから、推進ネット

ワークのことは、先ほど、小泉さんがおっしゃったとおりのことです。SDGsの策定プロセスを見習えば、オープンに議論し、その進捗管理や評価も透明性と当事者性を持つものであるべきと考えます。私が先ほど申し上げたネットワークをぜひオープンにさせていただきたいなということと、行政からの評価結果を一方向的に受けて共有するものにはしてほしくないということは、少し関連する意見なのかと思っています。指標の話も申しましたが、RCED道央圏からも、各優先課題の進捗状況をはかる指標についても「参考となる指標」だけでは不十分であることから、新たに必要な指標づくりを専門家及び実践者を交えて作っていくことが求められます。先ほど、課長がおっしゃっていたことと同じ方向を向いているのかと思います。さらに、根本的なところで、私たち一人一人の意識を変革することによって持続可能な世界に変えていくことが必要です。それからそのトランスフォーメーション、「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」に書いてあることだということですね。2030アジェンダにある「誰ひとり取り残されない」「最も遅れているところに第一に手を伸ばすべく努力する」という理念を真摯に受けとめ、魅力や強みに注力することによるトレードオフに留意し、原理原則である「権利」ベースのアプローチによって、持続可能な世界実現に向けた北海道の取り組みを進めていかなければなりませんと書いていただいています。それで今後のこととして、私の言ったことのほとんど繰り返しですが、北海道SDGs推進ビジョンがきっかけとなり、全道でSDGsに関わるオープンで多様な参画による議論が展開され、北海道のビジョン自体もより良いものに進化していくことを期待します。同時に、RCED北海道道央圏協議会においても持続可能な世界の実現に向けた取り組みを一層進めてまいりますので、引き続きよろしく申し上げます。このような意見でしたので、エッセンスだけでも議事録に残していただければいいかなと思います。

(さっぽろ自由学校「遊」・小泉 雅弘)

有坂さんが書いていることと少し重なりますので紹介しておきます。こちらの資料、たまたま先日講師で招いた方からの資料ですが、SDGsのベースは人権であるということ、何ていいますか、もう少し意識して欲しいと思います。これはSDGsの17目標がどういう権利と関わっているのかということを整理した、ヒューライツ大阪という団体が作ったものです。やはり、言葉として使っているかどうかはともかく、SDGsの根底にあるのは権利です。人権です。「誰ひとり取り残さない」という理念だけではなく、全体としてそうだと思う。そのことを北海道のビジョンにどこまで感じられるかということ、正直あまり感じられないなというふうに思っています。そのことを意識して、今後進めて行って欲しいと思いますし、そのことを意識するということと私が今まで言ってきた、どういう課題に直面した人に注目していくのかということ、あるいはその人たちの参画を積極的に考えていくのかということは、同じことなんです。SDGsは、北海道の新たな可能性をどうのこうのとか、ビジネスをどうのこうのという話では基本的にないです。ないという前提をもう少し広めてくれないと、それこそSDGsに対する誤解が広がるかなと思います。

(酪農学園大学・吉中 厚裕)

ありがとうございます。これが一応、先ほどおっしゃっていたとおり、定期的に開かれる懇談会は最後ということですが、いい足りないことがあれば、よろしいでしょうか。

(さっぽろ自由学校「遊」・小泉 雅弘)

ちなみに、このビジョンの冊子はどれくらい作って、こういった形で配られるんですか。

(渡邊計画推進課主幹)

ページ数が凄く多いので、大量に印刷して配るとするのは、そもそものSDGsの視点からどうなのかという声もありますし、また、データも多いので検索して使っていただく方が使いやすいかなと思いますので、基本はデータで配付して、欲しいという方には印刷してお配りするような形でどうかと考えております。

(さっぽろ自由学校「遊」・小泉 雅弘)

データで配布するというのはメールかなにかで送るということですか。

(渡邊計画推進課主幹)

とりあえず、道のホームページでも公開しますし、データが欲しいと言われれば、メールで送ることも可能です。

(JICA 北海道・野吾 奈穂子)

JICAとしては、今後もSDGsの推進ということで、市民の皆さんにも色々な情報発信を引き続きやっていきたいと思っております。我々も本当に知らないことだらけだなということを、この懇談会の場を初め、いろいろな場で勉強させていただいて感じているので、引き続き、「変革」していく主体として、いい意味での緊張感と一緒に協働させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(Ambitious Farm・柏村 章夫)

私も農業者として、始めから場違いなところに来ちゃったなと思ってしまい、余り貢献出来なかったと思っておりますが、こういう場に参加させて貰って、SDGsへの取り組み方や成り立ちを知り、物事の進め方なども初めての経験が多く、凄く学びが多かったと思っております。とはいえ、農業者として、本業を通じてSDGsに取り組んでいる企業としては、先進的な方だということで、自分達が出来ること、役割が自分たちの業界にはあるだろうというふうに思っています。さらに、どう取り組むか、周りを巻き込みながら何が出来るのかということを考えていきたいと思っておりました。今後ともよろしくお願いいたします。

(酪農学園大学・吉中 厚裕)

ありがとうございました。私の力不足で、皆さんから納得できるような議論をずっと出て

なかったことは本当にお詫びしたいと思います。私自身は非常に勉強になって、今日の議論も面白く聞かせていただき、関わらせていただいて、本当に良かったと思っております。ありがとうございました。まず、そもそも懇談会を始めた時には、骨子案が出来上がっている制約があったところから始まり、なおかつ、いつまでに作るということも決まっているという非常に厳しい中で、良く付いてきていただいたなという気がしております。ありがとうございます。道庁の方もそういう制約の中で、こういう色々な意見を聞いて、また、別の色々なところからも意見を聞いていただき、まとめていただいて本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。おそらく、ポイントとしてはこの後だと思います。ビジョンはビジョンで、良いのか悪いのかあるのかもしれませんが、作ってしまいましたので。後は、とにかくSDGsを北海道で達成するんだということで、具体的な動きを皆でやっていかないといけないだろうなと思っています。その中でやはり道庁の役割は大きいものがあると思いますので、是非これからも協働させていただいて、一緒に頑張っていきたいと思っております。皆さん、どうぞ引き続きよろしく願いいたします。ありがとうございました。お返ししたいと思います。

（石川計画推進課長）

長時間にわたりまして御議論いただき、誠にありがとうございます。また皆さんにはこれまでの4回にわたりまして、この懇談会に御出席をいただきました。大変色々な貴重な御意見をいただきました。改めて感謝を申し上げたいと思います。今後、このビジョンは12月末に決定いたしますけれども、このビジョンに沿って、我々も積極的に進めてまいりたいと考えております。皆様におかれましては引き続き、色々な立場から、御意見を頂戴できればと思っております。先ほども申し上げましたが、この懇談会、定期的に集まって開催していただくのが今回で最後とさせていただいております。今後につきましても、また、色々な場面で皆様方の御協力をいただくことが多々あるかと思っておりますので、引き続きよろしくお願いしたいと思います。この場で皆様方の御協力を重ねて感謝を申し上げまして、本日はこれをもって閉会をさせていただきます。ありがとうございました。